

クリエイティブライフ

もっとアクティブ Creative Life

キンボールスポーツは、1986年にカナダの体育教師、マリオ・ドゥマースが考案した球技。巨大なボールを使用する新タイプのスポーツである。上達にはもちろん練習が必要だが、ボールが大きいので、基本的な動作は誰でもすぐ習得できる。北米、ヨーロッパ、アジアを中心に広がり、幼稚園児から学生、社会人、シニア層まで幅広い年代でプレーヤーが増えている。

キンボールスポーツで使用する「キンボール」は、直径122センチ、重さ約1キログラムの巨大ボール。ラテックス製のインナーボールをナイロンで覆っている。基本的に屋内でプレーする。競技は4人で1チームを組み、3チームが同じコートで競技する。愛知県キンボールスポーツ連盟理事長の高橋猛敏さんは「スポーツ競技の多くが個人やチームの1対1で競うが、1つ

キンボールスポーツ

のコートで3チームの「三つどもえの争い」となるのがキンボールスポーツのユニークなところ」と指摘する。競技コートの大きさは13メートル×16メートル×20メートル。会場となる体育館の広さやプレーヤーの年齢、そこにいくつコートを設置するかなどの条件に合わせてコートの大きさを定めることができる。競技はコートの中でヒットとレシーブを繰り返す。ボールを床に落としたり、コートの外に出すとポイント(得点)を取られる。チームはブラック、グレー、ピンクと色分けする。ヒットの時に「オムニキン」とコールし、続けて相手チームのカラー名を指定しなければならぬ。



3人がボールを支えて1人がヒットするキンボールスポーツ

ボールを床に落としたり、コートの外に出すとポイント(得点)を取られる。チームはブラック、グレー、ピンクと色分けする。ヒットの時に「オムニキン」とコールし、続けて相手チームのカラー名を指定しなければならぬ。

3チームの巨大ボール争奪戦

知多市では、毎月第3土曜日午後7時から知多中学校体育館で、知多市スポーツ推進委員会主催の「キンボールスポーツを楽しむ会」を定期開催している(1月は休

催)。一般に広く普及させようと企画されており、事前予約不要で誰でも見学・参加できる。知多市では市主催のキンボールスポーツ大会も開催されている。毎年年末には、愛知県キンボールスポーツ連盟による県大会「きしめん杯(ばい)」も開催されている。毎回250人以上が参加している。また今年11月14日、15日に知多市で「全国大会」も開催される予定。愛知県でキンボールスポーツの全国大会が開かれるのは今回が初めてとなる。

知多市で初の全国大会

愛知県キンボールスポーツ連盟(電話090・3563・3949)は2009年に設立。愛知県下でキンボールスポーツの普及に努めている。事務局で最寄りのキンボールクラブを紹介している。各クラブでは練習の見学や体験も可能。また、プレーする会場と12人以上の参加者を用意すれば、連盟から指導者を派遣してくれる。

総勢250人以上が参加する「愛知県大会」



チームプレー必須 教育的効果も期待

高橋さんは2001年にキンボールスポーツを知った。知多市スポーツ推進委員も務める高橋さんは、ニュースポーツの一つとして興味を持った。「競技はチームワークが大切。スタンドプレーでは勝つことができない」という。「誰でもできる

キンボールスポーツ連盟理事長 高橋猛敏



「すべての人が楽しめるスポーツ」という意味の造語。例えば、ブラックがピンクを指定して「オムニキン、ピンク」とコールしてヒットすると、グレーのチーム。一方、レシーブは単独プレーボールに手出しできなく、足でも認められる。指定されたピンクのチームがボールを落とすと、ブラックと、何もしていないグレーにポイントが入る。ヒットする時に指定するのは、得点でリードするチーム。1ポイントが7分。ポイントの多さを競う。ヒットは上半身のどの部分を使っても構わない。また、年齢は幅広い。高齢者向けた、ヒットの瞬間はチームのメンバー4人全員がボールに手を触れなければならない。つまり、3人がボールを支えて、残る1人がヒットする共同作業になる。一方、レシーブは単独プレーボールに手出しできなく、足でも認められる。指定されたピンクのチームがボールを落とすと、ブラックと、何もしていないグレーにポイントが入る。ヒットする時に指定するのは、得点でリードするチーム。1ポイントが7分。ポイントの多さを競う。ヒットは上半身のどの部分を使っても構わない。また、年齢は幅広い。高齢者向けた、ヒットの瞬間はチームのメンバー4人全員がボールに手を触れなければならない。

高橋さんは2001年にキンボールスポーツを知った。知多市スポーツ推進委員も務める高橋さんは、ニュースポーツの一つとして興味を持った。「競技はチームワークが大切。スタンドプレーでは勝つことができない」という。「誰でもできるスポーツだが、マナーが重要視されるので教育的効果も期待できる。ラリーが続くと楽しい」と魅力を挙げる。高橋さんはスキルアップのために、今でも講習を受けている。03年に普及指導員の資格を取得。12年には上級指導員の認定資格「グランドマスター」になった。

小学校入学

戦後の日本は敗戦の後遺症で国民生活は荒廃し、食料、衣料、医薬品、学用品など深刻な物不足だった。1951年(昭和26年)4月、自宅の裏にある大隈

脱脂粉乳とDDTの思い出

町立大隈小学校に入学し、幼稚園や保育園に通園しながら、いまの子どものように、幼稚園や保育園に通園しながら、小学校、家を飛び出し、夕食時間も思ったように、も上手で「遊びの天才」とい、子どもたちが健康に育

入学時は忘れて暗くなるまで遊ぶ平仮名で。遊び場は小学校や須賀

自分の名(祇園神社)、大隈町役場など。相撲、チャンバラ、缶蹴り、石蹴り、縄跳

った程度だ。竹馬、パチンコ、パッ

憶している。チン(メンコ)、ビー玉、

る。しかんかこまに夢中になった。

し、小山にはヤマモ、シイの実、

校に入学。ナマス、カニ採りに行っ

い友達も。私の得意種目は相撲だけ

増え、す。兄は何をやってが戦後日本の食糧事情を憂

髪店を営んでいる。小学2年生から給食が始

74歳になったいまも、手先の器用さを生かし現役で理

ばせながら、ユニセフに少額を寄付させていた

た。当時は衛生状態も悪かっ

た。シラミを除去するため

に児童の頭髪に粉状の薬剤

DDTを散布する防疫対策

もとられていた。DDTはアメリカ軍が持ち込んだ



進和会長 下川 浩平 6



小学校5年生のころの筆者